

## 4-1-5-2 循環器科

### 1. 概要、特色

- (a) 小児循環器を専門とする診療科として、主に先天性心疾患を取り扱う。その他、川崎病、心筋疾患（心筋症、心筋炎）、不整脈などの後天性心疾患患者数も多く、急性期および慢性期を通じて継続的な治療を行っている。
- (b) 18歳を超えた先天性心疾患患者の管理を成育医療の重要な要素と捉え、成人の先天性心疾患患者の外来、入院および手術を行っている。
- (c) 胎児診療科と協力し、胎児期のスクリーニングで心疾患が疑われた症例や、他の疾患における心機能の評価などを経時的に計測し、胎児の管理および治療に当たっている。
- (d) 周産期科、母性内科と共同で先天性心疾患患者の母体妊娠の管理、治療に当たっている。
- (e) 特殊診療科、外科、新生児科と共同で胎児治療の検討を行っている。
- (f) 不整脈に対し、電気生理学的検査を行い、カテーテルによる治療も検討している。
- (g) 心臓の内部の異常や血管の異常に対し、コイル閉塞、バルーン拡大、デバイス留置など、様々な手技によるカテーテル治療を行っている。

### 2. 診療活動、研究活動

- (a) 循環器科外来は、木曜日以外の毎日開いている。常時2名もしくは3名の循環器科専門医が診察に当たり、外来患者数は一日20-30名で週に80-120名であった。新患者は10-15名で、紹介患者も多く、とくに成人の複雑心奇形や脈の異常など多く見られた。小児循環器領域の患者だけでなく、18歳以上の成人先天性心疾患の複雑心奇形患者や先天性心疾患の妊娠女性の受診依頼があった。また成人先天性心疾患の紹介患者は、心臓の問題のみでなく全身の合併症を伴う症例や、重症例、手術適応例が多く見られた。胎児診療科、産科、母性内科からの母体を含めたコンサルテーションも多く見られた。院内の各科からのコンサルテーションの依頼は、月のべにして30-40人であった。
- (b) 心電図判読、ホルター心電図、運動負荷試験、レートポテンシャル等の生理検査と、超音波検査の実施件数は以下の通りであった。

平成16年度	2004/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
心電図判読例	461	424	492	535	639	482	510	493	462
ホルター心電図	37	41	51	59	61	44	53	67	48
運動負荷実施例	9	2	7	5	6	8	2	4	5
レートポテンシャル	1	1	0	0	2	0	0	0	1
合計									
心臓超音波									
経胸壁	334	307	425	416	439	385	404	274	363

平成16年度	2005/1月	2月	3月	項目合計
心電図 判読例	481	420	533	5932
ホルター心電図	63	31	69	624
運動負荷実施例	2	0	5	55
レートポテンシャル	0	0	0	5
合計				6616
心臓超音波				
経胸壁	361	367	456	4531

経胸壁超音波検査は、通常の生理検査室で行う以外に NICU、ICU、各病棟で行われた検査である。この他に開胸手術の術前、術後の経食道超音波検査（40 例）を実施した。また、胎児診療科、周産期科と共同して行っている胎児心疾患スクリーニング、心疾患母体の妊娠経過中の超音波検査も、変化を経時的に観察することにより効果を上げた。

- (c) 心臓カテーテル検査は週に平均 5-6 例、平均すると月に 17 例で、そのうちインターベンションカテーテル（弁拡大、血管拡張、血管閉塞等）は月に平均すると 4-5 例であった。

月	2004/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
カテ件数	10	10	11	14	16	14	15	20
インターベンション	3	4	1	2	5	4	1	2

月	2004/12月	2005/1月	2月	3月
カテ件数	14	13	9	11
インターベンション	2	3	7	7